平城宮跡・東楼復原工事　現場だより　第28号

「時を営む、時を繕う」　奈良時代を今に感じる　伝統技能の継承現場

錺金具、鴟尾（しび）が順調に製作中！

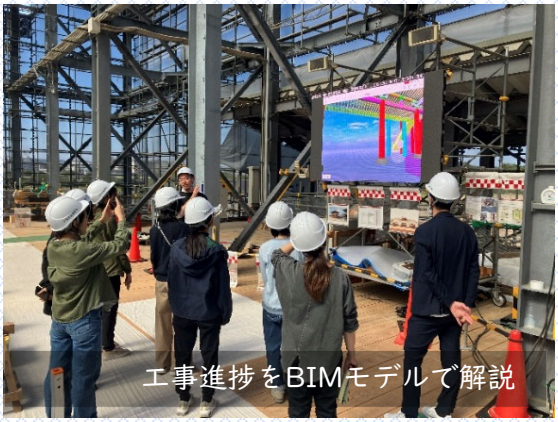
東楼の復原のため工事現場の外でも各工房では錺金具のアマルガム塗金、鴟尾の金箔貼りの作業など順調に作業が続けられています。12月には、屋根の両側に鴟尾（しゃちほこの部分）が現場で取付作業が予定されています。

沖縄の首里城の火災を契機とした防火対策の強化対策等、工事の工程に大きな影響がありましたが、現在では瓦の取付けが進み東楼（本体工事）もこれから佳境を迎えます。

金箔の検査風景

魅せる！現場　大学生が参加

奈良市内の大学に通う女子大生（建築・都市系学生）が見学にやってきました。
専門性の高く、多くの質問に開催側もびっくり。熱心な姿勢に職人さんも感心していました。
充実した見学会になりました。

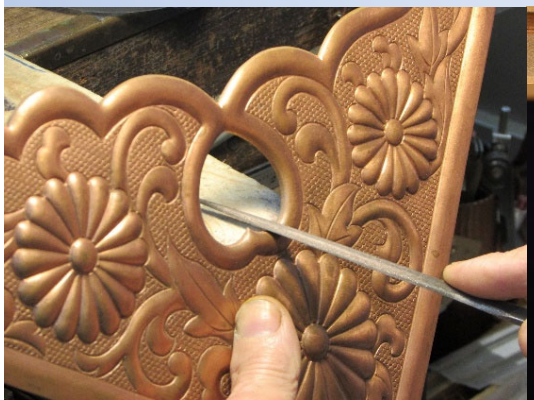

工事進捗をBIMモデルで解説

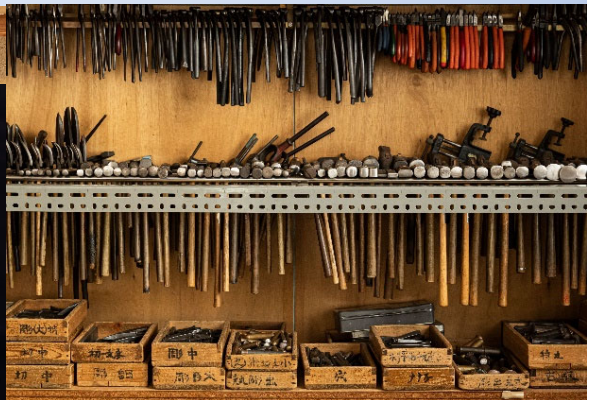
難しい質問に職人さんもびっくり

全員が熱心にメモ取り

工房めぐり（冬）　平城宮跡・東楼 復原工事

～※東楼の「魅せる！現場（１０名以上の団体向け）」は、新規受付を終了しました～
工房めぐり（錺金具）は令和６年１２月２６日に開催します。
場所は京都市内にある森本錺金具製作所の工房及び、展示見学。
工房ならではの体験コーナーも予定しています。（要予約。本HPの案内より申込みをお願いします）





平城宮跡・東楼復原工事　現場だより　第２８号

魅せる！現場　高校生１１４名が参加！

大阪府内の工業高校（建築学科）の１年生と３年生が見学に来てくれました。
「お給料は高いですか？」「女性職人は多いですか？」といった仕事環境に関する質問から、
「木材の墨付けの道具は何を使っているのですか？」「屋根の曲線はどうやって作るのですか？」といった技術的な質問まで、たくさんの質問が出てきていました。

高校生からたくさんの質問があり、盛り上がりました

宮大工自前の道具（鑿：のみ）の多さに驚いていました

錺金具を手に取り、記念撮影！

長さ約12mの巨大柱が天井まで使われていることを確認しています

東楼で使う土壁は現場で作られていることを紹介しました

編集者コラム
・近隣紹介　なら歴史芸術文化村（道の駅併設）
～なぜ？から好奇心を旅しよう。感じる体験するつながる～

東楼の工事現場から車で３０分。恥ずかしなら私はこちらにある五重塔の組立模型を触らせて頂き、奈良時代の屋根の仕組みを理解しました。現場見学の前後に是非、おすすめの場所です。

【施設紹介（ホームページより引用）】https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/

なら歴史芸術文化村は、歴史、芸術、食と農など、奈良県の誇る文化に触れることができる施設です。日本で初めてとなる文化財４分野（仏像等彫刻、絵画・書跡等、建造物、考古遺物）の修理作業現場の公開や、国内外から招いたアーティストとの交流、子どもを対象としたアートプログラムなどを実施します。単に見学する、一方向の解説を聞くことだけで終わらせず、専門家や他の参加者と対話しながら知的好奇心を広げて学びを深めるラーニングプログラムを実践。五感で感じ、さまざまな人と関わり、体験して、「なぜ？」という新たな問いを生み出すことを大切に、知を探求していく楽しさを提供していきます。